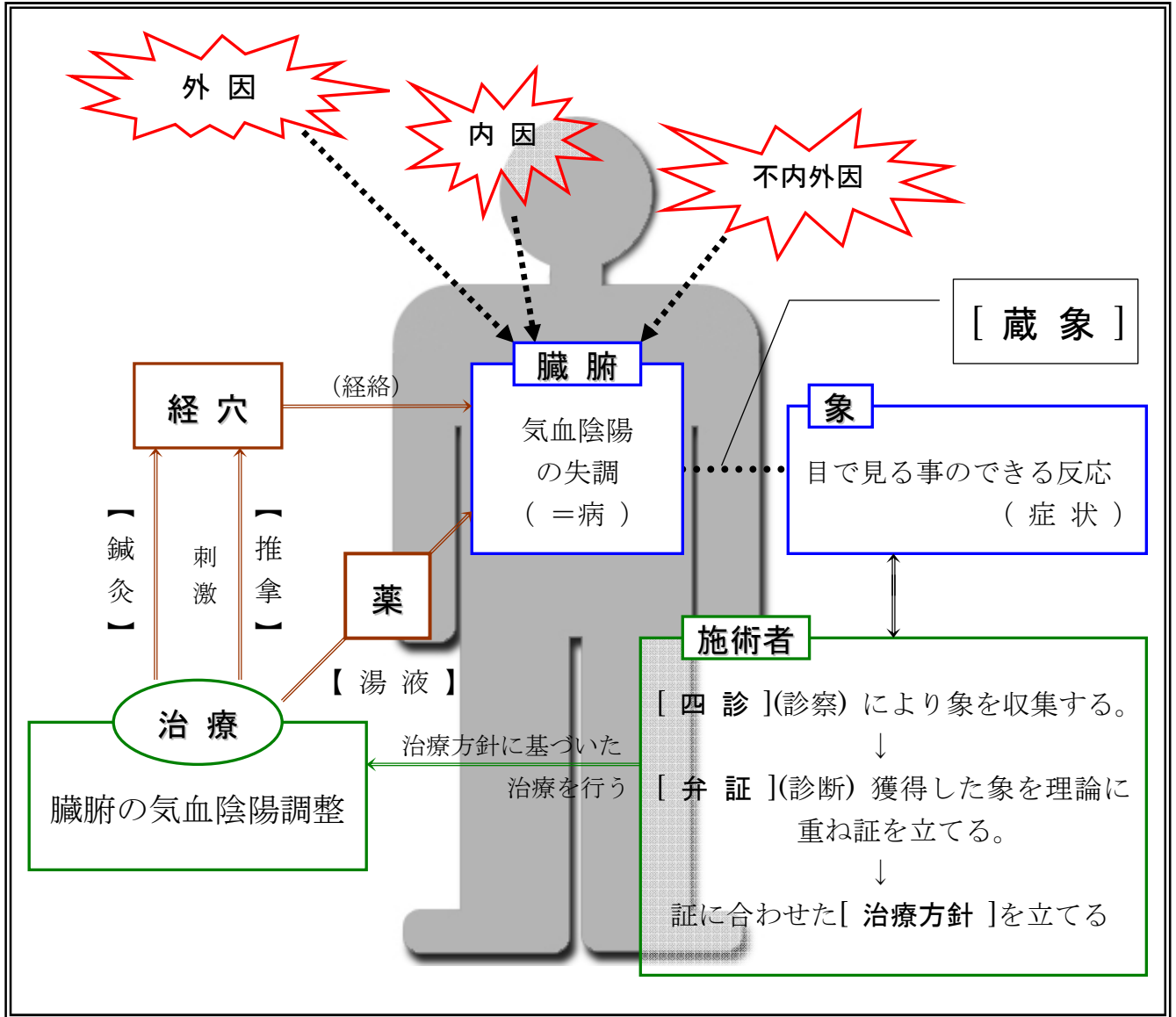


第16講 【 病因論 I 】 教科書 P.57~59

『 東洋医学の疾病観 』



：東洋医学の理論において人体の様々な生命活動は前講で学んだ五臓六腑を中心とする臓腑の働きにより営まれ維持されており、臓腑の働きはさらにそれぞれを構成する気血陰陽という4つの物質のバランスにより作り出されていた。また、臓腑の働きにより様々な組織・器官が養われている事から、それら組織・器官や生理活動に臓腑の状態が反映され、それらの臓腑の表に現れた表現を[ 象 ]と呼び、このような外から確認できる様々な表現(象)から臓腑の状態を推測することを[ 蔵象 ]と呼んだ。

東洋医学において病とは生命活動の根本である臓腑(の気血陰陽)に失調が生じた状態の事をいう。つまり病とは臓腑の失調のことを指すのである。

病(臓腑の失調)を引き起こす原因となるものを[ 病因 ]と呼ぶ。病因はこれから詳しく紹

介するが[ 外因 ][ 内因 ][ 不内外因 ]の3つに分類される。外因とは自然界、主に気候の異常変化など人体外部から臓腑の失調を引き起こす原因となるものをいい[ 外邪 ]と呼ばれるものである。内因とは感情の乱れなど体の中に由来し病を引き起こす原因となるものを指す。外因や内因以外にも病因が多数あるがそれらをまとめて不内外因と呼ぶ。

病因により病になると失調した臓腑の働きに対応して“象”にも様々な不良な表現が現れる。このような不良な象を[ 症 ]または[ 症状 ]と呼ぶ。

我々施術者は[ 四診 ]と呼ばれる診察方法を用いて患者から象を収集し、蔵象や病証といった基礎理論に照らし合わせどのような臓腑の失調が生じているのかを推測する。これを[ 弁証 ]と呼ぶ。四診と弁証により病の本質である臓腑の失調を捉えたら、それに準じた治療方針を立てる。

東洋医学における治療の本質は失調を起こしている臓腑の気血陰陽のバランスを調整することに他ならない。治療法として主なものに3つの手段があり、それらの総称は“三大療法”と呼ばれている。三大療法とは[ 湯液(漢方薬) ][ 鍼灸 ][ 推拿 ]の事である。“湯液”は薬物を服用することにより薬物の持つ特性を利用し直接臓腑気血陰陽の調整を行う。“鍼灸”と“推拿”は体表部に分布する経穴を刺激することにより経絡を介し臓腑気血陰陽の調節を行う療法である。

このような療法により臓腑の失調が解消すれば病が癒えたことになり、当然それに伴い“症・症状”も消失するのである。

## 『 病因論 』

[ 定義 ] 人体に疾病を引き起こすあらゆる原因。 邪・邪気ともいう。

[ 分類 ]

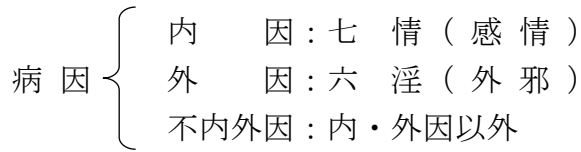
(1) 『 内経 』での分類

病因 { 陰：飲食、居処、陰陽(男女・房事過多)、喜怒(感情)  
陽：風雨寒暑(気候)

(2) 『 金匱要略 』張仲景・漢での分類

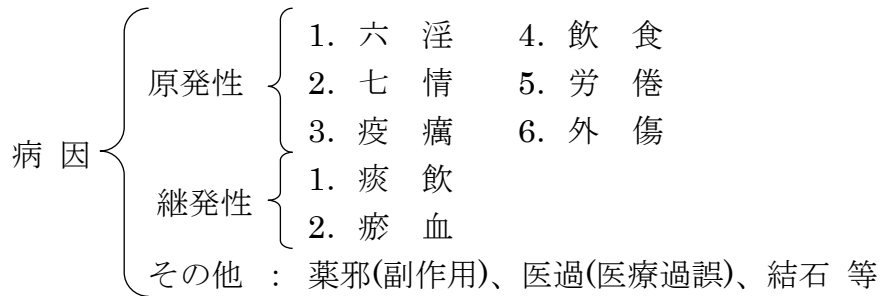
病因 { 一者、内所因：邪 → 経絡 → 臓腑  
二者、外所中：邪 → 皮膚 → 四肢・九竅・血脈  
三者、房室損傷、金刃所傷、虫獸所傷

(3) 『三因極一病証方論』 陳無沢・宋



\* 教科書・国試の標準となっている。

(4) 現代中医学の分類



[ 外感病と内傷病 ]

: 外因により発病した病を[ 外感病 ]と呼び、内因及び不内外因により発病した病を [ 内傷病 ]と呼ぶ。

### 1. 外 因

[ 定 義 ] 気候の異常変化等により、人体の外部から侵入し発病させる原因となるもの。 代表的なものに「六淫」がある。

《 六 淫 》

: 六気(五気) [風・寒・暑・湿・燥・火]、6種の自然気候のバランスが崩れたもの。  
⇒ 風邪・寒邪・・・・・・・・火邪

[ 六気が六淫に転化する条件 ]

① 六気の過大と不時季

- |   |                           |              |
|---|---------------------------|--------------|
| { | 過 大：正常な気候変化の範囲を超過。 暑 ⇒ 暑邪 | 例：酷暑（夏）      |
|   | 不時季：来るべき季節が来ない、各季節の気が不十分  | 例：冷夏 ⇒ 寒邪の発生 |

② 人体の正気不足

: 体が弱っている為、正常な気候変化に対応できない。

正気充実(抗邪能力強) → 多少の気候変化には対応 → 五気(六気)

正気不足(抗邪能力弱) → 多少の気候変化にも対応できない → 六淫

[ 六淫の共通特徴 ]

① 外感性: 六淫は全て体表部・口鼻から侵入する。

② 季節性: 六淫には明らかな季節性がある。

- |   |    |            |   |             |
|---|----|------------|---|-------------|
| { | 風邪 | : 春に最も多い   | ⇒ | 風病は春に多い     |
|   | 寒邪 | : 冬に最も多い   | ⇒ | 寒病は冬に多い     |
|   | 暑邪 | : 夏にだけ存在する | ⇒ | 暑病は夏にのみ発生する |
|   | 湿邪 | : 長夏に最も多い  | ⇒ | 湿邪は長夏に多い    |
|   | 燥邪 | : 秋に最も多い   | ⇒ | 燥病は秋に多い     |
|   | 火邪 | : (春)夏に多い  | ⇒ | 火病は春・夏に多い   |

③ 地域性: 六淫は地理的な特徴や生活環境と密接な関係がある。

- 例 {
- 関東・西 : 暑・湿・火邪が多い
  - 北海道 : 風・寒・燥邪が多い

④ 相兼性: 六淫は2種あるいは2種以上の六淫で共同して人体を犯すことが多い。

例: 風寒湿邪 → 関節 → 痺証

⑤ 転化性: 六淫のひとつが人体に侵入し、引き起こした症状が他の邪気により引き起こされた症状に似たものに転化することがある。

